

令和7年度 松江農林高等学校 学校評価報告書

大項目	小項目	分掌等	目標	取組指標	成果指標	評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	委員評価	
								評価	コメント
A	安全の保障	生徒指導部	ルールやマナーを意識し、自分で行動を選択できる。	登校指導や自転車の鍵かけ指導をおこなう。	登校指導の回数。	A	鍵かけについては、毎回同じ生徒が無施設であった。 複数回指導を受ける生徒が見受けられた。保護者への連絡や継続的な指導が必要である。 昨年と同様、以前として服装、髪型等のルールが守れていない生徒が見受けられる。教員の評価は7.4%とかなり低く、生徒との認識のずれがある。	B	・社会で通用するマナーを身につけた生徒の認識について生徒と教員の間に大きな差異があるが、その要因はどのようなことが考えられるか検討していく必要がある。 ・携帯電話の指導と服装指導の評価が低いことが気になった。なぜ、生徒との認識のずれが生まれるのかを考える必要があると思う。 ・高校在学中に成人となることからルールやマナーをしっかりと身につけていただきたい。 ・令和8年4月1日から自転車の交通違反の反則金制度が導入されることから自転車通学生に適切に指導願いたい。 ・社会に出て通用する現実的なルールを身につけた人材の育成に努めていただきたいと思います。 ・規則が守られていない感じがする。生徒会にて校則、罰則を決め、自分たちで決めたことを守る重要性、責任感を身につけさせるとい。 ・一部の生徒に服装、髪型の規則が守られていない点について、これが承認欲求の表れだとすれば一案としてコミュニケーションの基礎である挨拶が日常的に交わせる校風を築いて行く方向性を検討していただきたい。対話から生まれるものは希望となり自らの姿に反映されると思う。 ・「挨拶」や「思いやりのある発言」ができたことがA評価は素晴らしい。気になる点は、部活動の退部が増えていること。特に、女子の部活動離れが進んでいることを聞くのでその理由を探ってほしい。勉学の他に自分のやりたいことを見つけて打ち込む経験をしてほしい。また、服装や髪型の生徒と教員の考え方のギャップを埋めるような討論会を生徒会主体で開いてほしいかが。
				携帯電話の管理と使用に関する指導を適宜行う。	指導を受けた生徒の延べ数。	C			
				服装指導を各学期おこない、生徒による挨拶運動を実施する。	学校評価アンケート項目4の肯定的割合。	C			
		部活動をとおして、自己の成長を意識し、目標達成のため考え抜くことができる。	部活動紹介や、各部のPR活動を推奨し、入部率を上げる。	部活動への加入率。	B				
		生徒の主体的な学びを促し、サポートする。学びのきっかけづくり・情報提供を通して、学びの拠点・情報センターとしての機能の充実を図る。	図書館の機能を活用したイベント(学び・体験の機会)の実施。	図書館の機能を活用したイベント等の実施回数。	A				
		総合学科	系列や科目等の選択に主体的に取り組む生徒の育成。	生徒自身が、進路希望等に照らし合わせて系列や授業の選択に主体的に取り組むよう支援する。	生徒が自身の進路選択に合わせて、有効な選択ができたか。(アンケート調査・面談等)	A	「できた」は89.1%であり、担任の先生方を始め、多くの先生方のおかげで達成できた。		
		生徒指導部	仲間を理解し、互いに成長・協力できる。	学校行事(球技大会)をとおして、クラス連帯感を高める。	学校評価アンケート項目5の肯定的割合。	A	保護者、教員共に体育祭や球技大会などによる連帯感はかなり感じている。		
		1年部	自分を尊重し合う良好な人間関係を構築する。	場面に応じた挨拶やふるまいができる。	生徒アンケートで、場面に応じた挨拶やふるまいができた回答の割合。	A	「校舎内で気持ちよい挨拶をすることができたか」「相手の考えを尊重し、思いやりのある発言をすることができたか」に対する自己評価の結果である。		
		2年部	社会で通用するマナーを身につける。	場面に応じて規則やルールを正しく守ることで規範意識を高める。	校外学習等について、挨拶や礼儀作法等の基本的なマナーを守ることができたか。(生徒アンケートへの回答率)	B	「服装・髪型等の規則を守り、~学校生活を送れたと思うか」に対して肯定的評価の割合が、生徒と教員で非常にギャップが大きい。特に服装に関して、制服をきちんと着こなす指導を続けていく必要がある。		
		人権教育部	生徒の実態に即した人権教育及び道徳教育を推進する。	・人権教育講演会の開催。 ・人権教育HR活動学習指導案の検討及び立案。	検討及び立案した学習指導案の個数。	A	講演会2回は部落差別(従来)及びヤングケアラー(新規)について実施した。1~3学年の系統的な学習を目指して手直ししてきた学習計画・学習指導案が完成した。		
(2)健康・安全管理	健康管理・安全管理	保健部	生徒自らが、心と身体の健康に努め、自己管理できる能力を育成する。	定期健康診断を受けることで自らの健康状態の把握と健康の保持増進ができる。	①定期健康診断の受診率。 ②精密検査の受診率。	B	定期健康診断受診率はほぼ100%だったが、精密検査受診率は50%、歯科検診と視力検査の精密検査受診率は5~7%だった。	A	・健康や安全に対する意識づけが重要と考えるので、引き続き取り組みをお願いしたい。 ・気候変動での自然災害や温暖化が進んでいるので健康・安全管理については生徒と共に考え、施設設備の点検や冷暖房の設備の設備補充などについても要求していただきたい。
				防災訓練を通じて、防災意識の喚起に努める。	教科に頼らず、教科の観点から防災にまつわる簡単な講話をしていただく。	3回の防災訓練において、教科による講話を毎回していただくことを目標とする。			
		農場部	実験・実習をとおして安全教育を推進し、農業教育を実施する。	安全管理をおこない事故のない実験・実習を行う。	安全に留意して、実験・実習を行ったと回答する生徒の割合。	A	生徒は安全に対して高い意識をもって実習ができた。今年度も小さなけがは見られた。また、熱中症に関して今後も注意しながら実習に対応していく必要がある。生徒が利用できる場所に冷房の設置もしていただいた。アンケートでの回答を評価基準としたが、生徒からの回答率が低かった。		
				規範意識を高め社会人として、ふさわしい道徳観や多様な仲間と協力し学習ができる。	実験・実習において、安全項目を確認し機械等を協力して取扱い、破損や紛失をなくし、ケガなどがなかった。	授業評価において、安全に留意して実験・実習を行った、学びやすい学習環境について肯定的評価の平均値。	A		
		食品系列	教員間の連携を密に図り、安全・安心な授業・実習が行える。	食品加工工程においてHACCPを導入し、生徒が事故なく実験・実習を行うとともに異物混入等のない安全な商品の製造を行えるようになる。	ケガ・事故の発生回数。	A	実験・実習中の事故・ケガもなく、また安全な商品を製造することができた。これを当たり前のこととして次年度以降も気を引き締め取り組んでいきたい。		
				環境土木科	規範意識を高め社会人として、ふさわしい道徳観や多様な仲間と協力し学習ができる。	実験・実習において、安全項目を確認し機械等を協力して取扱い、破損や紛失をなくし、ケガなどがなかった。	授業評価において、安全に留意して実験・実習を行った、学びやすい学習環境について肯定的評価の平均値。		
(1)主体性・学習習慣	主体性・学習習慣	教務部	生徒が主体的に学習に取り組む環境を整備する。	スタディサプリの効果的な活用方法の研究を推進する。	スタディサプリによる長期休業中の課題配信に取り組んだ生徒の割合。	C	95%を超える生徒が取り組んだ学年・教科もあった。今後も主体的な学習につながるようスタディサプリを有効に活用したい。	A	・主体性の確保に向けて工夫された活動に取り組まれていると思う。 ・図書館の活動を通して学習環境の向上につながっていると思われる。 ・図書館の項目がすべてA評価で、学習情報センターとしての機能が高いことが伺える。さらに、図書館開放などを通して読書の楽しさを味わう憩いの空間になることを期待している。 ・中間、期末前の期間だけ勉強は向いていない、日頃からの小テスト等を増やした方が効果的ではないか。 ・スタディサプリの有効活用が生徒自身の学習能力の向上に役立ててほしい。
				保健部	周囲の状況や環境の変化に気を配り、自らの行動に反映させる。	生徒保健委員会の活動を通して生徒全体に啓発し、美化意識を高める。			
		図書研修部	生徒の主体的な学びを促し、サポートする。学びのきっかけづくり・情報提供を通して、学びの拠点・情報センターとしての機能の充実を図る。	朝読書・各授業(含総探)等への情報・資料提供他レファレンスサービスの充実。	満足度調査。	A	学科別では総合学科の、学年別では1年生の肯定的回答が若干高く、探究活動での情報・場所提供、司書による+αのレファレンスサービスの充実が奏功か。 「読書に親しむ」面の評価は低下。図書館活動費の多くをPTAにご支援いただいている本校だけに、広くご家庭(保護者)への図書館開放を考えたい。生徒による選書ツアー継続予定。		
				日々の学習や探究活動に全力を尽くし、自らの能力を高めることができる生徒を育てる。	1つひとつのことに全力を尽くし、日々を積み重ねるよう指導する。	「この1年間において、1つひとつのことに全力を尽くし、それを積み重ねることによって成長することができたか。」(アンケート自己評価「できた」の割合)	A		
		1年部	主体的に学習に取り組む態度を育てる。	各教科担当と連携を図りながら学習習慣の確立に努め、基礎的な学力の定着を図る。	定期テスト1週間前から学習時間平均2時間以上確保できた回答した割合。	C	学年末試験前のアンケートなので、学年末試験の取り組みは評価に入っていないが、家庭学習を増やす工夫が教員にも必要である。		
		2年部	主体的に学習に取り組む態度を育てる。	各教科等と連携し学習習慣の確立に努めて学力の向上を図る。	定期テスト1週間前から学習時間平均2時間以上を確保することができたか。(生徒アンケートへの回答率)	A	「積極的に学習活動に取り組む、成長できたと思うか」に対して、肯定的割合が高い。来年度の進学就職に向けて、面談等で引き続き声かけしていきたい。		
		3年部	定期試験、課題研究、資格取得に主体的に取り組む生徒を育てる。	試験日や発表日を早期に案内し、計画を立てさせる。	年度末アンケートで、「主体的に取り組むことができた」と回答する生徒の割合。	A	自分の主体性と、指導体制に関する2項目において、肯定的割合が高い。進路指導と絡めた集会・面談での声かけが有効だったと考える。資格取得の点では、学年部と学科がより連携できるとありがたい。		

B 学びの保障	(2) 授業改善・ICT活用	図書研修部	授業を互いに公開・見学し、授業づくりを学び合う。	互見授業(公開1回、見学2回)により、他者の授業づくりに学び、自己の授業改善に役立てる。	公開授業の実施率。	C	達成値は2月24日現在。例年年度末に授業の公開が集中する傾向。今後の増加を見込む。方法の変更(一定期間中全ての授業を相互公開・見学、含ご家庭への公開等)も有効か。	B	ICT活用については、授業内容とツール、生徒のニーズなど調整する事項が複数にわたって、苦勞して授業を行っておられると思う。 ・一人一台端末を持っていることからもっと多様に利用してほしい。 ・ICT活用について、県提供の研修機会の減少を来年度は解決していただきたい。 ・学ぶ意欲や主体性を引き出すためには、生徒自らが目標をもち(何のために学び)、学ぶ楽しさを体験すること(どのよう学ぶか)が重要である。生徒に進路や就職の目標をもたせ、教師が一時間一時間の授業でのめあての設定やその振り返りを行うなど積み重ねが重要になる。
		農機部	課題研究の高度化と学校農業クラブ活動を活性化させ主体的に学ぶ姿勢を育成する。	農業クラブ活動を活性化し、学習活動を行う。	県大会における最優秀の数。	B	県大会では、農業鑑定競技で最優秀賞が出なかった。全国大会の入賞も昨年度に続き1名であった。意見発表会では、中国大会を突破し2年連続全国大会に出場した。プロジェクト発表においても県大会を突破し中国大会に出場した。次年度は特に農業鑑定競技会において、県大会最優秀を目指し、普段の授業から積み重ねをしていく必要がある。		
		福祉系列	実習及び体験的学習を充実させ、基礎的な知識・技術の習得・活用する力を身につける。	定期的な小テストや実技テストを実施する。	定期的な小テストと実技テストを実施し、振り返りを行うことができた。	A	小テストは32回、実技試験は3回、行った。また、今年度よりClassroomのフォームを用いて、振り返りを行った。それにより、生徒の理解度の把握ができてきている。		
		教務部	生徒にとって魅力ある学習活動を展開する学校を目指す。	授業改善の手立ての一つとして、ICT機器の活用を研究する。	生徒による学校評価アンケート項目「積極的なICTの活用や考える場面の設定など、わかりやすく興味・関心の高まる授業がおこなわれていると思うか」の肯定的回答の割合。	C	生徒による評価が昨年度より下がり、B評価を達成できなかった。科目や単元によりICT機器の活用のしやすさや差があること、ICT機器を学ぶのツールとして捉える意識に差があることが要因と考える。次年度は授業規律を担保しようとして、授業での活用場面が増えるよう実践例等の紹介をしていきたい。		
		図書研修部	ICT活用の推進。	有効なアプリなどの使い方や活用事例等についての研修を紹介・実施する。	ICT関連の研修会への参加回数。	B	端末導入4年。校内ポータル等ツールとして定着の一方、県提供の研修機会は減少(オンデマンド受講講座増)。ニーズを捉えられず、有効な研修機会を提供できなかった。(達成値はアンケート結果による)		
		食品系列	魅力ある授業の展開。	ICT機器等を用いて分かりやすい授業を行うことで、生徒の興味・関心を高める。	アンケートにおいて、食品系列の授業に対する興味・関心が高まった生徒の割合。	A	ICT機器を用いた授業や実習などの実践的な授業を行うことで食品分野の学習に興味関心を持たせることができた。		
C 進路の保障	(3) 探究的な学び・進路選択	農機部	課題研究の高度化と学校農業クラブ活動を活性化させ主体的に学ぶ姿勢を育成する。	他科や地域・上級学校との連携・協働した研究を実施する。	課題研究における研究の数。	A	今年度も、様々な分野で企業と協働・協力して課題研究に取り組んだ。教員主導で進んでいるところもあり、生徒の主体的な活動につながるようにしていく必要がある。校内では、材料の提供1件にとどまった。	A	・松農発表会での課題研究の発表は、いずれも充実した内容であり、生徒の日頃の努力と教職員の適切な指導の結果としてあらわれている。 ・様々な企業と協力して活動が実施されており、多様な知識を学べる環境が整えられている。 ・進路選択については、1年次からの意識づけが重要と思われる。 ・全体的に生徒自身が主体的に活動して学びを深めていると思う。 ・今後も、探求的な学びによって、松農で味わえる「学ぶ」楽しさを生徒には十分に体験させ発信していただきたい。進路選択もA評価であることは本学への信頼性が高まる。中学校説明会などでPRしてほしい。
		生物生産科	農業に関する学習をとおして協働的に取り組む態度を身に付ける。(チームワーク力)	発信力、頼頼力、柔軟性の定着と向上を目指し、下記の取り組みを実施する。 ・対話的な学習場面を効果的に取り入れる。 ・友人と協働して学習する場面を効果的に取り入れる。	アンケートにおいて、「協働的に取り組む態度」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。	A	専門科目の学習のなかで、ペアやチームでの作業計画の立案や栽培管理、振り返りの場を重視したことで生徒同士が互いの意見を尊重しながら課題解決に取り組む姿が見られた。		
		生物生産科	農業に関する学習をとおして、何事にも粘り強く取り組む力を身に付ける。(アクション力)	主体性、選択する力、働きかけ力、実行力の定着と向上を目指し、下記の取り組みを実施する。 ・授業で学んだ知識を「技」として発揮する活動を行う。 ・研究や調査、栽培管理等において自分の考えを試す活動を行う。	アンケートにおいて、「粘り強く取り組む力」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。	A	肯定的な評価が多い反面、約1割の生徒は十分な達成感を得られていない。今後は活動の振り返りをより丁寧に行い、努力や成長を実感できる機会を充実させたい。		
		環境土木科	課題解決に向けた目標設定ができ、計画的に物事に取り組み、結果に対して適切に考察することができる。	取得すべき資格試験を自ら選定し、合格に向けて意欲的に学習することができたか。	各種資格試験に合格した生徒の割合。	B	各資格別の合格率にはばらつきがみられる。各試験に偏りなく高い合格率を目指して指導していきたい。		
		地域系列	専門教科を通して、地域の課題や資源について知り、地域の魅力を発信できる。	様々な発表やまとめを通して、課題を明確化し発表し、互いの意見や完成物を高め合う活動ができる。	発表会などを通して、他者の考えや思いを理解し、前向きな考えや意見を持つことができることと自己判断する肯定的評価の割合。	A	総合的探究の時間への積極的な取り組みがうかがえる。今年度は企業等との連携活動が活発に行われ、地域振興について学習の深化が見られた。		
		進路指導部	生徒が1年次から複数の方進路情報を得ることで、的確な進路選択を行うべく広い視野を持つことができるようにする。	進路ガイダンス、進路学習会、企業ガイダンスなどを計画的に行い、体系的に進路について学習する機会を設定する。	振り返りアンケートで「進路情報を得るのに役立った」と答えた人の割合。	A	1年次に3回、2年次に3回、ガイダンスを受講した。日頃、先延ばししがちな自己の進路について考えるよい機会になったようだ。		
C 進路の保障	(1) 主体性	環境土木科	粘り強く学習に取り組む姿勢や、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付ける。	課題研究や現場見学、専門学習において地元企業や団体とともに授業を展開し、進路選択へ活用する。	授業評価において、学習の主体性について、専門科目への関心が高まったか肯定的な評価の平均値。	A	全学年現場見学や専門機関を利用した体験学習を行うことができた。建設業の中でも様々な職種の見学や体験ができた。課題研究も企業と活動ができた。成果として卒業生進路先は79%が学科関連の就職や進学となった。次年度以降も継続したい。	A	・評価結果は先生方の努力のたまものであると思う。 ・専門分野、2年次、3年次のそれぞれの取り組みを継続していただきたい。 ・引き続き継続していただきたい。 ・全学年の体験活動は、進路に向けて今後も継続していただきたい。 ・実社会との連携がうまく取れている。本校の強みとして発信してほしい。
		2年部	進路を意識した主体的な取り組みができる。	授業の学習内容を自分の将来に活かす。	2つ以上の資格取得や検定試験に挑戦したか。(生徒アンケートへの回答率)	A	「進路志望を実現するために~チャレンジすることができたと思うか」に対して、肯定的な生徒が多かった。今後も面談週間等を有効に活用し生徒に促していきたい。		
		3年部	希望する進路に向けて主体的に行動する生徒を育てる。	企業や学校の体験会・見学会・情報交換会、クラス掲示および個別に案内する。	年度末アンケートで「案内された学習会に参加する等、主体的に情報収集して行動できた」と回答する生徒の割合。	A	同上		
		保健部	学年会・進路指導部と連携し適切なキャリア指導に関わる。	各学年会に参加し情報交換を密にする。	学年会への参加状況。	A	毎週定期で実施される学年会へ参加し、情報交換を密に行うことができた。		
		図書研修部	生徒の主体的な学びを促し、サポートする。学びのきっかけづくり・情報提供を通して、学びの拠点・情報センターとしての機能の充実を図る。	朝読書・各授業(含総探)等への情報・資料提供他レファレンスサービスの充実。	満足度調査。	A	学科別では総合学科の、学年別では1年生の肯定的回答が若干高い。探究活動での情報・場所提供、司書によるαのレファレンスサービスの充実が奏功か。 「読書に親しむ」面の評価は低下。図書館活動費の多くをPTAにご支援いただいている本校だけに、広くご家庭(保護者)への図書館開放を考えたい。生徒による選書ツアー継続予定。		
		進路指導部	自らの進路実現に向けて生徒が主体的に取り組むことができるようにする。	就職希望者一斉面接指導や進路希望者個別指導を充実させることによって学校全体で3年生の進路実現を支援する体制をつくる。	就職希望者、進路希望者が全員それぞれの進路を確定したか。	A	国公立4大14名、公立短大4、私立短大22、私立短大6、農林大学校2、専門学校44、県内就職51、県外就職2、公務員8、アルバイト2		

指導環境・体制づくり	魅力化推進室	産官学連携の推進。	地域や各種学校等と連携した活動を展開する。	連携した研究・活動の数。	A	総合的な探究の時間や課題研究を通して校外の関係機関と連携した活動ができた。今後も継続していきたい。	A	・国公立大学をはじめ、進学が増えているのは指導体制が整備されている証である。
	食品系列	生徒の適性に即した進路指導を早期から行う。	課題研究や企業見学を通し、地元企業、上級学校との連携を深め、進路選択に役立てる。	食品に関連する企業への就職または関連性のある上級学校への進学割合。	C	系列生23名のうち9名が食品関連企業への就職、学校への進学であった。		
	福祉系列	地域との連携活動を推進することでキャリア教育の充実を図る。	地域資源である福祉施設や事業所、中学校等との連携活動を実施する。	地域資源である福祉施設や事業所、中学校等とのつながりが持てたか。	A	実習先として15か所(特養8・デイ6・複合1)、施設見学として1か所(有料老人ホーム)、介護の出前授業として12の中学校とつながりを持てた。介護の出前授業は今年度で5年目となるが、社会福祉学生HERO'S賞を受賞するなど、全国的にも高く評価された。		
	地域系列	校外学習や地域との連携に際し、その場にふさわしい挨拶や服装および態度ができてきている。	授業を始め、学校生活全般において、社会人として必要な挨拶やその場にふさわしい服装や態度ができる。	年度末アンケートにおいて、授業や様々な学習活動で、その場にふさわしい服装や態度ができてきているという割合。	A	地域系列では多くの校外学習を計画し実施してきたが、挨拶はできるものの、その場にふさわしい服装や態度については教員の23.1%とギャップがある。生徒に自分を律することについて伝える必要を感じている。		
	1年部	個に応じた進路指導に努める。	情報共有に努め、生徒一人一人に応じた進路指導をおこなう。	生徒1人あたりの面談実施回数。	A	1月までの結果で、3学期に1回増える予定である。		
D その他	総務部	松農発表会や学校説明会、オープンスクール、HPなどを通して、本校の活動を効果的に紹介する。	各種行事やHPを用いてPR活動に努める。	志願倍率が1倍を超えることを目標とする。	A	昨年度同様、松江市・安東市・雲南市・奥出雲町の中学校のうち、要望のあった全てに対して高校説明会を行うなど、生徒募集を積極的に行った。	A	・昨年度に引き続き、東京販売会が実施されたが、参加した生徒の発表は大変充実しており、このような機会の継続を願う。 ・学校の魅力を発信する取り組みを積極的に行っていただきたい。 ・東京販売は松江農林高校の特徴ある取り組みの一つだと思う。今後継続的に取り組むためにもステークホルダーの理解と協力が不可欠である。 ・魅力化推進室の取組は秀逸である。今後も予算の確保を工夫され継続を期待する。HPやSNSを活用した学校広報をさらに工夫されたい。
		PTA活動の充実を図り、保護者主体の取組みになるよう工夫する。	総会、収穫祭模擬店で保護者の参加を促す。	総会参加、収穫祭模擬店参加の保護者のべ数が、全保護者数の30%以上となることを目標とする。	B	本年度はPTA総会を平日夜に実施した。出席者は36名であった。また、収穫祭模擬店の参加者は2日間でのべ60名で、12名増となった。今後もPTA行事への参加を呼びかけていきたい。		
	魅力化推進室	学校内連携の推進。	学校の魅力化と働き方改革に向け、各分掌とタイアップした活動を行う。	他の分掌と協働した事業数。	C	東京販売に農場部と協働で取り組んだ。次年度以降は予算の確保の面で課題があるが、継続できる方法を模索したり、さらに違う分掌とタイアップできる企画を検討していきたい。		